

# 平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	佐賀県
学校名	武雄市立若木小学校
学校のホームページアドレス	http://cms.saga-ed.jp /hp/wakaki-takeo-e

## 1 取組テーマ

ICTを利活用した食育を通して、生活習慣を改善する取組

## 2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	平成24年	1人
配置されていない場合の対応状況		

## 3 推進委員会の構成

委員長 澤野香代子 前西九州大学特任教授  
 委員 寺西 健二 連携企業代表（株式会社タニタ）  
 委員 徳永 貞康 武雄市教育委員会学校教育課課長  
 委員 藤田 大輔 西部教育事務所指導主事  
 委員 岩永 宏紀 武雄市教育委員会学校教育課指導主事  
 委員 中島喜佐子 武雄市教育委員会学校教育課主任  
 委員 富岡 勝利 武雄市食育課楽しい食卓係係長  
 委員 小柳 和枝 JA佐賀武雄支所生活指導員指導課課長代理  
 委員 山崎 健彦 武雄市立若木小学校校長  
 委員 福山 隆志 武雄市立若木小学校栄養教諭  
 委員 幸尾美由紀 武雄市立若木小学校養護教諭  
 委員 三上 智一 佐賀県教育庁学校教育課保健体育室室長  
 委員 川村 喜洋 佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当係長  
 委員 百武 裕美 佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当指導主事  
 委員 川橋 誠信 佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当指導主事

## 4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
株式会社タニタ	健康セミナー開催、ソフト作成、データ分析、報告
西九州大学	全体計画の企画、教材提供
JAさが武雄事業所	栽培、調理加工

## 5 実践内容

<b>事業目標</b>	児童の食生活をはじめとする生活習慣を改善し、健康増進を図る。
<b>評価指標</b>	①健康な体位・体格に改善した児童の割合80%以上を目指す ②食習慣を改善した児童の割合80%以上を目指す
<b>評価方法</b>	①タブレットを使った「食習慣」アンケートの継続実施 ②企業と連携した体位・体格、活動量（運動すること・歩くこと）の測定 ③生活習慣を含めた食育アンケートの実施

## 評価指標を向上させるための仮説(道筋)

- ① 「わかきっ子食育タイム(食育指導)」や「わかきっ子食育ノート」、教科、学校給食の時間の指導を通して、健康や栄養について学習することにより、知識の獲得や興味関心の高まり、日常生活での活用等につながり、健康な体位・体格への正しい理解が深まるであろう。
- ② 児童が歩数計を装着し、自らの活動量を毎日確認するとともに、食事摂取とのバランスの重要性を理解すれば、健康な体位・体格に改善するであろう。
- ③ 児童が毎日の食事をタブレットを利活用し記録・確認することにより、児童は自らの食事の課題(欠食・食事バランス)に気づき、課題解決への意欲が高まり、望ましい食習慣の形成につながるであろう。

## 実践内容

### 〇具体的な取組

#### (1) 連携(大学・企業)による実践

- ① 児童・保護者を対象にした「食育アンケート」の実施と分析
- ② 体組成計による計測と記録の実施と分析(毎月2回)
- ③ ICT(タブレット)による児童の食事記録の実施と分析
- ④ 企業による保護者対象の「食育講演会」の実施
- ⑤ 企業による児童対象の「食の授業」の実施



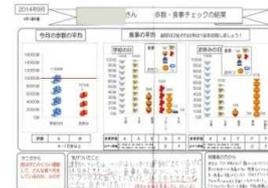
[タブレットの利活用]



[子供常着歩数計]



[体組成計による測定]



[食事調査分析: タニタ提供]



[タニタによる保護者対象食育講演会・子供対象食の指導]



[子供自身のデータ確認]

#### (2) 学校での食育指導と実践

##### ① 校内環境の整備

(食育に関する掲示物の作成と学習の場の設定)



[校内環境の整備]

##### ② 年間計画に基づく「わかきっ子食育タイム」

→ 食育指導に位置付け、月に1回の実施

##### ○ 食育タイムの基本的な流れ(全45分)

1. テーマについての話
2. はかせ(栄養教諭)の話
3. 「食育タイム」の歌
4. 学級での振り返りと発展学習

○ 朝ごはんの大切さ(6月)

○ よくかんで食べよう(7月)

○ 食べ物と運動について考えよう(9月)



[食育タイム: テーマについての話]



[食育タイム: はかせの話]

○武雄（若木）の食べ物を知ろう（10月）

○感謝して食べよう（11月）

○おやつを考えよう（12月）

○学校給食を考えよう（1月）



[担任による教室での食育指導]

③「わかきっ子食育ノート」の作成と指導



[個人の学習記録]



[学習資料をファイル]



[食育ノート]



[食育ノートを家庭で利用]

④担任、養護教諭、栄養教諭による食育授業・課題解決授業の実施

第1学年 学級活動「食事のマナーを考えよう」

第2学年 学級活動「きゅうしょくじまへようこそ」

第3学年 特別活動「はし名人になろう！！」

第4学年 総合的な学習の時間「家庭や地域に伝わる料理を大切にしよう『わが家のおにぎり』」

第5学年 家庭科「元気な毎日と食べ物」

第6学年 総合的な学習の時間「おやつ調査隊出動！」

あゆみ 生活単元学習・自立活動「食事のマナーを身につけよう」

全学年 ○早ね早起きの大切さ ○食べ物の栄養

○好き嫌いをなくす ○食べ物の消化と吸収

○色々な油と脂 ○野菜の持つ力



⑤「わかきっ子ランチョンマット」の作成並びに活用の指導

⑥地場食材を活用した学校給食の充実 ⑦学校給食の公開 [養護教諭による課題解決授業]



[子供作成のランチョンマット:表と裏]



[ランチョンマットの活用]



[給食でランチョンマットを再現]

(3) 連携（JA・地域）による実践

①米・大豆・芋・野菜の栽培活動（栽培、収穫、加工、調理）の実施

②地域生産者との交流活動の実施

③区長会・保護者を対象とした「学校給食試食会」の実施

(4) 運動習慣と健康の関連について

①歩数計による活動量計測と記録の実施（毎日）

②児童の活動量（運動・歩行）を増やす学習や運動指導の実施 [JA支援の稲作活動]



(5) 取組の情報発信

①学校ホームページに「食育の部屋」を開設し、本校取組状況の随時情報発信

②「学校便り・学級便り・食育便り」による保護者、地域への随時情報発信

③校長による保護者、地域（区長会、若木町振興協議会等）、佐賀県小中学校校長会等各種団体への説明

④武雄市食育課と連携した武雄市報等を通した市民への情報発信・食習慣（朝食）の改善を図るため、タブレットを使ったアンケート調査用ソフトを企業等と連携して開発、継続した調査をもとに、企業の専門的知識を生かした指導、授業、講演、諸外国との食習慣との比較等を行い、結果を分析しその成果を確認する。  
・家庭科や学級活動と関連付けた栄養教室・健康教室を、担任・養護教諭・栄養教諭が連携した指導をクラス単位、学校全体で行う。そのために、一斉指導の場、地域への広報活動の場としてランチルームを活用する。  
・運動量を把握するため、歩数計やアンケート調査を企業と連携して行い、運動習慣と健康の関連を検証する。

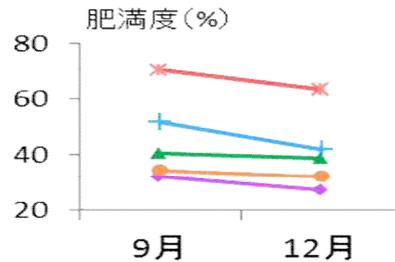
## 6 成果

1. 肥満児童において、肥満度が低下した児童は100%であった。そのうち、肥満度20%以下となったものは、1名/7名であった。

(評価指標①評価方法②)

- 食事で野菜を意識して食べるようになりました。(保護者)
- 体重を測る回数が増えました。(子供)

肥満児全員の肥満度が低下した

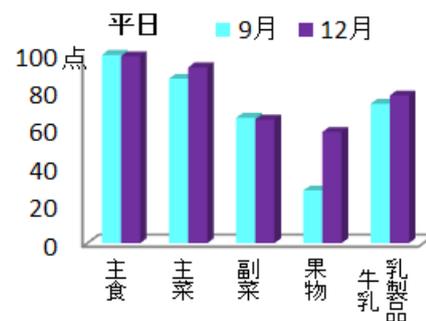


2. 1日を通して、79%の児童が主菜の摂取が増加し、87%の児童が副菜の摂取が増加した。

(評価指標②評価方法①)

- 毎日食べている「みそ汁」が3色(黄・赤・緑)そろそろよい食べ物とわかりました。(保護者)

毎日の食事内容が改善した



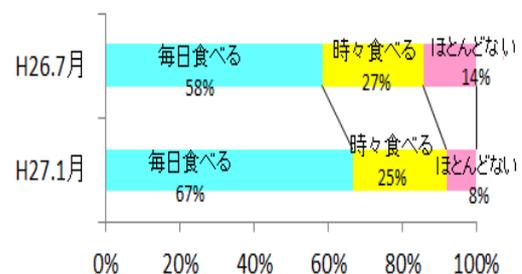
3. 朝食で「主食・主菜・副菜」をそろえた日が増加した児童は平日71%、休日53%であった。(評価指標②)

4. 主菜、副菜、牛乳・乳製品の食事得点が増加した児童が80%以上であった。(評価指標②)

5. 大人と毎日一緒に朝食を食べる児童は、85% (7月) から92% (1月) に増加した。(評価指標②)

- 好き嫌いが減り、食事の手伝いをするようになりました。(保護者)
- 大人も子供も楽しみながら食事をするようになりました。(保護者)

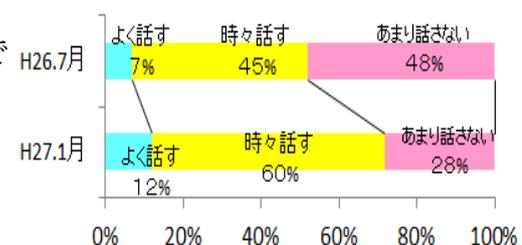
大人との朝食共食の割合が増加した



6. 「食育タイム (全校一斉指導)」を家族で話題にする機会が増加した児童は、0%が52% (7月) となり、72% (1月) まで増加した。(評価方法①)

- 子供たちと食事について話す機会が増え、いつも意識できてよかった。(保護者)
- 食事について、考えるようになった。(子供)

家族で食育タイムの話が増加した



7. 平日の1日の食事で、主菜、果物の摂取回数が有意 (タニタ報告: t検定による。以下同様) に増加した。(評価方法①)

8. 平日の朝食で主菜、副菜の摂取回数が有意に増加し、種類をそろえて食べた割合も有意に増加した。（評価方法①）
9. 平日の副菜の摂取回数が有意に増加し、種類をそろえて食べた割合も有意に増加した。（評価方法①）
10. 休日の1日の食事で、主菜、副菜の摂取回数が有意に増加した。（評価方法①）
11. 休日の朝食で、果物の摂取回数が有意に増加した。（評価方法①）
12. 休日の昼食で、主菜、副菜、果物の摂取回数が有意に増加し、種類をそろえて食べた割合も有意に増加した。（評価方法①）
13. 休日の夕食で、副菜の摂取回数が有意に増加し、種類をそろえて食べた割合も有意に増加した。（評価方法①）
14. 児童や家庭の食事に変容した。（食育アンケートより）（評価方法③）
- タブレットで記録した結果が、グラフにして結果が出るので、足りない食品の種類が一目でわかるようになりました。
  - 栄養バランスを考えた食事をするようになりました。
  - 主食、主菜、副菜、果物、乳製品をセットで食べるようになりました。
  - 給食のように主食、主菜、副菜、汁物を食べなければいけないと思いました。
  - 副菜の内容を気にして、夕食以外も副菜を添えるようになりました。
  - 子どもも副菜を気にするようになってきました。
  - ビタミン、ミネラルがとれるよう副菜や果物、乳製品を前より増やしました。
  - 食事に1品追加するようになりました。
  - 大皿盛りを止め、盛り分けるようになりました。
  - 野菜をよく調理するようになりました。
  - 野菜を意識して食べるようになりました。
  - 調理のとき何種類の野菜を使っているか気にするようになりました。
  - 食事が具たくさんになりました。
  - おやつの内容を反省するようになりました。
  - いつも食事を意識するようになりました。
  - 朝食をしっかり食べるようになりました。
  - 朝食も主食、主菜、副菜を意識して取り入れるようになりました。
  - 給食献立をリクエストするようになりました。
  - 子どもと食について話す機会が増えました。
  - 食事のマナーを考えるようになりました。
  - 好き嫌いが減り、手伝いをするようになりました。
  - よく噛むようになりました。
  - 手作りをするようになりました。
  - 食に対する意識を改めるようになりました。
  - 食事の時はテレビを消すようになりました。
  - 食を通じて命の大切さや生き方を話すきっかけとなりました。
  - 大人も子どもも楽しみながら食事をするようになりました。
  - 1人で食べさせないようになりました。
  - 感謝の気持ちで食べるようになりました。
15. 児童の活動量が増加した。（食育アンケートより）
- しっかり外で遊ぶようになりました。
  - 1日1回身体を動かすようになりました。
  - 1日1万歩を目指すようになりました。
  - 1日30分以上運動するようになりました。

- 毎日歩いて登校するようになりました。
- 1日1km走るようになりました。
- 休日も外で運動するようになりました。
- 陸上に休まず行くようになりました。

16. 児童の生活習慣が変容した。（食育アンケートより）

- 早寝早起きをするようになりました。
- 十分に睡眠をとるようになりました。
- 睡眠の環境を整えるようになりました。
- 規則正しい生活をするようになりました。
- 決まった時間に排便するようになりました。
- 体重を測る回数が増えるようになりました。

## 7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

1. 学校のホームページに「食育の部屋」を設定し、本校取組状況等の情報を随時、発信している。
2. 「学校便り・学級便り・食育便り」により、保護者や住民等に対して情報を随時、発信している。
3. 校長が保護者対象の会議や地域の会議（区長会、若木町振興協議会等）並びに佐賀県小中学校長会等の各種団体へ説明している。
4. 武雄市食育課と連携し、市報などを通して市民等へ情報発信している。
5. 佐賀県教育委員会ホームページにおいて、「実践発表リーフレット」を掲載し、スーパー食育スクール事業の実施校での取組や成果を発信した。

## 8 今後の課題

1. ICT等を活用した食育の実践方法
2. 企業との多様な企画連携の取組
3. 食に関する指導目標（6項目）に沿った指導内容の具体的な取組
4. 児童の変容を総合的に捉える評価方法の探求
5. 効果的な食の授業の課題別実践の取組
6. 児童の活動量（運動・歩行）増加に向けた指導の取組
7. 研究成果の定着度の深化にむけた取組
8. 情報発信のあり方の探求